



第10回  
返却値 (6.1 ~ 6.6)

AJ科 宮川 治

# 概要1

- 文字列 (String型) の連結
  - 演算子多重定義
    - + 演算子は2項演算子
    - + 演算子は項の和を計算する
    - + 演算子は文字列の場合は項を連結する
    - + 演算子は左項が文字列の場合、右項を文字列に変換して連結する。
    - 算術演算子の+のみ

# 概要2

- 返却値の個数は(0~1)
  - voidは0(無し)
  - 返却値の個数が1の場合、返却値には型がある。
  - return 返却値;

# 概要3

- クラス図からの導出
  - 返却値の型
  - 返却値の位置の違い
    - クラス図と振る舞い(メソッド)
    - 返却値の型(プログラム→クラス図)
      - 型 振る舞い → 振る舞い:型
- 返却値の初期値(デフォルト)
  - String型 → ""

## 概要4

- 引数無し、返却値 (String) あり
- 引数一つ (int)、返却値 (String) あり

# 設問

- クラス図の3段目の表記からプログラムへの変換や確認
  - 返却値の型
  - 返却値の初期値
  - 引数の型や個数
- インデントミスの弁別